



編集後記

- 今回の「人間福祉研究」第14号の発行を、なんとか年度末最終日に間に合わせる事ができました。本誌を発行できるのは、多岐にわたる学会の活動をお手伝いいただく会員の皆様と投稿者の皆様のおかげです。今回も多くのご投稿をいただき、充実した内容となりました。相変わらず動きの遅い編集委員会にお付き合いいただきましたこと、心から感謝する次第です。
- 人間福祉学会で開催した引地奈月さんの講演では、なかなか聞くことのできないモンゴルの福祉の現状から、日本の福祉や生活環境について改めて考える機会となりました。屋外は車いすで移動している彼女だからこそ感じたことや気づいたことは、福祉学科の学生や卒業生、教員にとっても刺激となりました。本号に、当日の講演内容をまとめたものを掲載しております。モンゴルの民族衣装で講演いただいた引地さんには心より感謝申し上げます。また、引地さんは、ネパールのバリアフリーの整備や、共生社会の実現を訴えるため ASIA TRY 2016 IN NEPAL という活動に参加するため、平成28年3月にはネパールに行く予定です。また、色々な話を聞けることを楽しみにしています。
- 人間福祉学会の第2部では、地域福祉・児童・高齢・障害の各分野で活躍している卒業生（1期～9期生）4名をお招きし、現在の仕事内容や仕事のやりがい・難しかったこと等話していただきました。在校生にとっても卒業生にとっても、将来の仕事について考える良い時間になりました。本号に、当日の実践報告会の内容をまとめたものを掲載しております。
- 昨年度に引き続き今年度も、「島根ブロック大会」を8月8日（土）・9日（日）の両日に島根県出雲市で開催しました。大会は四部構成で、第一部は実践フォーラム「福祉実践の現状と課題」、第二部は福祉の各分野の説明・相談会、第三部は「情報交換会」、第四部は「大会総括」というものでした。第一部の「実践フォーラム」では、特別養護老人ホームや保育園、病院等で働く卒業生が今の仕事や出産や育児等のライフイベントの話も交えながら後輩たちへメッセージも贈ってくださいました。第二部では、参加者が自己紹介後情報交換を行いました。先輩から後輩へのアドバイスを頂いたり、後輩から先輩への悩みを相談したりといった形で、多分野・多世代にわたって卒業生が交流する場となりました。また、島根出身者や島根で就職を考えている在学生3名も参加し、先輩からの心強い励ましをいただきました。今後も、島根で働く卒業生・在校生が交流できる機会を作っていきたいと思えます。
- 今回も、本学開催と島根県開催の2回の人間福祉学会の様子を掲載することができました。今後も、人間福祉学会が在学生と卒業生、教員の情報交換および交流の場として、互いに刺激を与え、成長し合える場であると同様に、学会誌上における互いの情報交換や交流、切磋琢磨を進めていきたいと考えております。皆様に無理なお願いをすることもありますが、変わらずご協力いただきますよう心よりお願いいたします。

広島文教女子大学 人間福祉学会
『人間福祉研究』第14号編集委員（溝渕 淳 太原 牧絵）